

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

# 龍馬が、新選組が駆け抜けた八軒家

## ～堺屋から出てきた謎の男、その名は…～

「天下の台所」といえば大坂。幕末の志士たちは勤王派も佐幕派も開国派も問わず、京都・伏見から三十石舟に乗って天満・八軒家に上陸。「戦をするには軍資金が要る」と、船場の名だたる豪商たちに会って、己の高邁な思想を語り、パトロンを捜しました。龍馬が、新選組が、大坂の幕末を彩ります！



### ①八軒家・船宿堺屋源兵衛跡

安政3年(1856)の水帳(江戸時代の土地台帳)によると、間口26間(約50m)、奥行き9間(約16m)の大きな船宿でした。伏見の寺田屋と業務提携していたので、坂本龍馬が利用した可能性が高いと言われています。司馬遼太郎の『龍馬がゆく』には堺屋から出てくる竜馬を新選組の藤堂平助が隣の京屋の2階から見ている…といった記述があります。堺屋は明治20年代まで存在していました。

### ②八軒家・船宿京屋忠兵衛跡

安政3年(1856)の水帳によれば間口11間(約20m)、奥行き9間(約16m)の大きな大店でした。京屋は新選組の御用宿で、永倉新八の「浪士文久報告記事」にも登場し、芹澤鴨・近藤勇・土方歳三・沖田総司らが、しばしば利用しました。慶応4年(1868)1月8日の鳥羽伏見の戦い後は、大坂城を焼け出された新選組隊士たちは京屋に宿泊、近藤らは11日に天保山から江戸に帰還しています。明治初期には京屋から和泉屋に名前が変わり、その後、4軒分の店に分かれました。

### ③紀州藩蔵屋敷跡

慶応4年(1868)、明治天皇が当地に行幸されました。天満八軒家船着場廃止後、昭和32年(1957)まで大阪・伏見間を運航していた蒸気外輪船の船着場、荷物専用の運送専用船の発着場でした。近年、前島密像が設置されました。

### ④天神橋

#### (大坂西町奉行与力内山彦次郎天誅事件)

幕末期は全長250mの木橋でした。文久3年(1863)5月20日、天神橋南詰で大坂西町奉行の与力、内山彦次郎が暗殺(天誅)されたと言われています。新選組暗殺犯説が根強くありますが、よく判っていません。内山は大塩平八郎の乱で活躍した与力でしたが、汚職疑惑などがあり、反幕府勢力に睨まれていたと思われます。また同年7月2日、石塚岩雄の首が天神橋の欄干に晒されました。石塚は壬生浪士組と偽り、商家から借用した金を遊興費にあてたので壬生浪士に処刑されました。新選組は慶応3年(1867)12月14日にも天神橋を渡っています。大政奉還に伴って將軍慶喜が大坂城に入り、新選組も京を引き払い、大坂にやってきました。その際、布陣したのが大坂天満宮で、2泊した後、16日に最前線となる伏見へ向かいました。鳥羽伏見の戦いが始まるのは、それから半月後のことです。

### ⑤竹式楼跡

安政5年(1858)12月27日、越後長岡を旅立った越後長岡藩士・河井継之助は、尊敬する山田方谷(備中松山に居住)を訪ねる途上、「塵壺」という日記を書き記しました。それによると安政6年(1859)7月5日、大坂に到着し長岡藩蔵屋敷に宿泊。翌日、今橋新地(築地蟹島)にある「竹式楼」に宿泊したことが記されています。図録「浮世絵師初代長谷川貞信が描いた幕末・明治の大坂」の「築地蟹島」に「竹式楼」が描かれています。

### ⑦花外楼

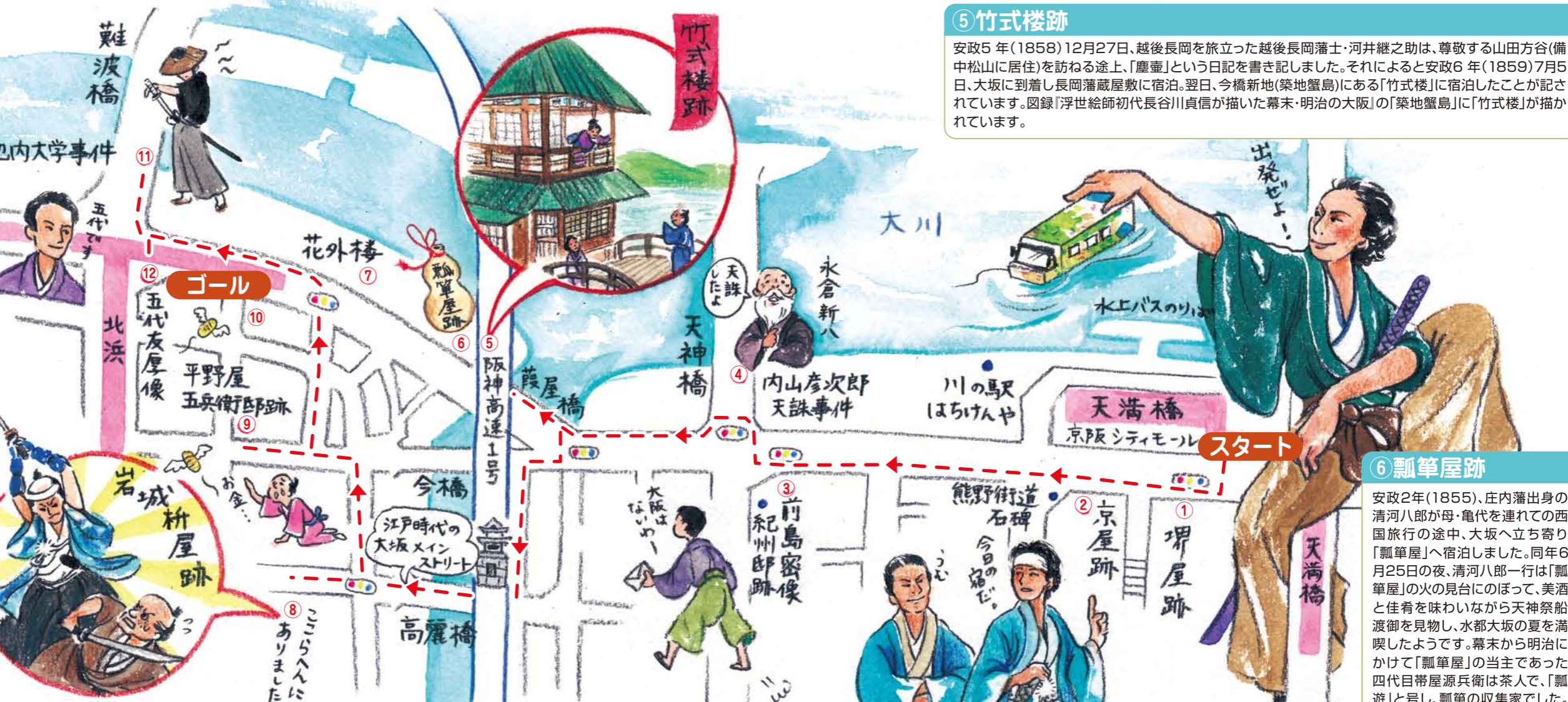
天保年間、「加賀伊」という料亭旅館を初代伊助が開業。元治元年(1864)夏、京都から追われてきた長州藩士を匿ったのがきっかけで、「加賀伊」は志士の潜伏や密議の場となり、桂小五郎(木戸孝允)もよく潜伏したといわれています。また明治維新後に、「明治六年の政変」で孤立無援となった大久保利通が、木戸孝允を復帰させるため、大阪で数ヶ月間かけて話し合いを行いました。その結果、明治8年(1875)2月11日、大久保利通、木戸孝允、板垣退助との和解が成立し、木戸、板垣が政府に復帰することが決まりました。これを「大阪会議」といいます。会議成功の記念に木戸孝允が揮毫した「花外楼」が店名となり、今日に至ります。

### ⑧岩城柵屋跡

江戸時代、高麗橋周辺は繁華街で、京街道の起点でもありました。呉服屋、扇屋、薬屋、菓子屋などの有名店が軒を並べるブランドストリートで、岩城柵屋は江戸にも支店があるような、大きな呉服屋でした。文久3年(1863)秋、ここに賊が入ります。京屋に滞在中の新選組に知らせが来て、山南敬助ら隊士3名が岩城柵屋に駆けつけ、賊と斬り合いになりました。かなり激戦になったようで、近藤勇は、山南のぼろぼろに刃こぼれして、べっとり血糊がついた赤心沖光銘の刀の押し型や、事件の様子を故郷の多摩に書き送りました。それを多摩の庄屋で地元の有力者だった、小島鹿之助が日記に模写して、書き残しています。この事件で、会津候(京都守護職 松平容保)から報奨金8両が下賜されました。

### ⑩専崎楼跡

花外楼の南西にあった大料亭で御約束の芸者もいました。明治8年(1875)大阪会議の際は、伊藤博文が「専崎楼」を宿泊地として、伊藤と木戸孝允が対談をしたり、黒田清隆も宿泊しています。明治中期には陸軍中将・高島鞆之助や初代奈良県知事を務めた税所篤など、数多くの政治家、陸軍高官がこの店を最良にしていました。



### ⑨平野屋五兵衛邸跡

平野屋は寛永13年(1636)開業の老舗両替商です。両替仲間の統領になったこともあります。向かいの天王寺屋五兵衛も大きな両替商でした。文久3年(1863)夏、芹澤鴨以下の壬生浪士が平野屋から借金して、京都大丸で浅葱色のだんだら染めの羽織や誠の旗を新調したと言われています。その後も新選組は今橋周辺の両替商から攘夷にむけての武器代や、新選組の費用を調達するために徴収をし、寄付をつのりました。平野屋一族の平野屋孫兵衛の番頭である武兵衛は、「近藤勇は極悪人」と日記に書き残しています。「15万両の押し借りをした」「新選組は局長というので珍しい」といったようなことも書いています。

### ⑪難波橋(池内大学事件)

浪速三大橋(天満橋、天神橋、難波橋)のうちの一つ。彫刻家・天岡均一氏作のライオン像が備えられたため「ライオン橋」という愛称になりました。幕末期に京都で活躍した儒者・池内大学は、梁川星巖、梅田雲浜、頼三樹三郎らと一緒に土佐藩主の山内容堂から宴会に招待され、土佐藩大坂蔵屋敷からの帰りに刺客に襲われて落命。首は難波橋に晒され、切り落とされた耳は、脅迫状と共に京都の公卿・中山忠能邸と三条実愛邸に投げ込まれました。犯行は土佐藩士・岡田以蔵という説があります。

### ⑫五代友厚像

五代友厚は、薩摩藩医・五代秀堯の子として坂本龍馬と同じ天保6年(1835)に生まれました。坂本龍馬の海援隊と紀州藩が争った「いろは丸事件」で両者の仲介を務めました。慶応元年(1865)、30歳の時に欧州を視察して、帰国後は新政府の参与、外国官権判事などを歴任。堺事件の解決に尽力して、その後、多くの事業を起こし、大阪商法会議所(現・大阪商工会議所)を設立して初代会頭に就任しました。東京商法会議所を設立した渋沢栄一と比肩する人物として「東の渋沢、西の五代」と称されています。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳細いプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。